

松之山郷 中世の山城

松之山郷には、春日山城の支城群や砦であろうと思われる山城が多数存在します。それらを紹介します。

松之山地域

	位置	標高(m)	任務
高館城址	松之山 五十平字大滝	4 2 3	松之山から豊原峠を越えて津南の辰ノ口へ至る街道の『監視・連絡所』
橋爪城址	松之山 橋爪字東表	4 5 5	北方に高館城、東方に東山城、南方に秋葉山城址が眺望できる
秋葉山城址	松之山 中尾字山之田	6 3 8	中尾から津南の外丸、天水島から棚田を通過して外丸へ至る道の『監視・連絡所』
東山城址	松之山 東山字南谷	6 4 1	東山から中里村の宮中に至る街道の『監視・連絡所』
藤原城址	松之山 黒倉字丹明倉	4 7 8	柏崎～善光寺街道、松之山～高田街道を『監視・連絡』する重要な拠点

松代地域

犬伏城址	松代 犬伏字城山	3 6 5	犬伏城は三国街道の要衝に位置していたため、戦国時代の上杉謙信の領国支配に欠くことのできない地位を占めていた。建武年間(1334～1337)直峰城主風間信濃守信昭の勢力圏、建武4年(延元二、1337)足利尊氏の越後南朝軍撃滅のため、一族の仁木氏の支配下に入る。観応年間(正平、1350～52)には、北朝方の原田善太郎が犬伏城を根拠地として南朝軍と各地で交戦した。慶長3年(1598)の上杉景勝の会津移封後、堀秀治の支配となったが、同15年の堀家没落と共に廃城となった。
松代城址	松代字城ノ腰	3 8 6	東北方に犬伏城址、北方に蓬平城址、北西方に蒲生城址、西方に室野城址が眺望できる中心地、南北朝の動乱時代(14世紀中頃)に築城されたと思われる。魚沼方面からの軍事連絡を春日山城へ伝える任務と、春日山城へ進行する敵に備えて構築されたもので、重要な軍事的役割を果たしたに違いない…にも関わらず、城に関する資料は何も残っていない。
蒲生城址	松代 蒲生字本城	3 7 7	東方に犬伏城址、東南に松代城址、北方に蓬平城址、南西方に室野城址が眺望。頸城郡から魚沼郡へ通じる三国街道沿いに構築され、上杉謙信の関東出陣の際、街道警備の役割を果たしたに違いないと記されている。
蓬平城址	松代 蓬平字城	5 0 0	東方に犬伏城址、東南に松代城址、北方に岡野町城址が眺望できる。三国街道の監視を目的とした砦で、柏崎方面から進入する敵に対する備え、狼煙城としても役割を果たしたのであろうと記されている。
室野城址	松代 室野字深山	5 0 9	本丸からは松代城址、蒲生城址、犬伏城址等が眺望できる。春日山城から関東へ通じる三国街道の要衝にあたり、軍事上重要な拠点であった。伝承によると、古くは松之山三郎の居城であったという。南北朝の動乱時代(14世紀中頃)、風間信濃守信昭が直峰城を根拠地として越後足利軍と戦っていた際、室野城の風間氏の勢力圏内と思われる。